

# JAPIC NEWS

# 12

2011 | No.332

財団法人 日本医薬情報センター **JAPIC**  
Japan Pharmaceutical Information Center



【シマエナガ】  
Long-tailed Tit

全長およそ13.5cm。オス・メスともに、体がマシュマロのように丸くて白く、大変かわいらしい鳥。ユーラシア大陸に分布し、日本では北海道で見ることが出来る。低地や低山帯の樹林に住み、冬は3~20羽程の群れで過ごし、同じねぐらに並んで眠る。昆虫や樹液、菌類をエサとする。さえずりは、「チーチーチー、チャッチャツ、ツリリージュルリ」。

## Contents

### ■巻頭言

「情報探索能力は「神業」」 アステラス製薬株式会社 営業本部DIセンター長 藤井 善博 ..... 2

### ■インフォメーション

JAPIC-Qサービス ユーザ会を開催します ..... 4

第137回薬事研究会 開催案内 ..... 4

年末年始休業のお知らせ ..... 4

JAPIC AERS(ジャピック・エアーズ)ビューアお試し版のご案内 ..... 5

JAPIC Daily Mailの調査対象サイト拡大のお知らせ-フランスの規制当局Afssapsを追加! ..... 5

### ■トピックス

JAPICサービスの紹介

附属図書館 ..... 6

鈴鹿医療科学大学でiyakuSearch検索実習を実施 ..... 7

■海外で承認された医薬品(17) ..... 8

### ■コラム

薬学教育の現場から「生きた薬学を学ぶための帝京平成大学の取り組み」

帝京平成大学 薬学部 齋藤 充生 ..... 10

会員の声「人生の楽しみ-図書館とピアノと猫と・・・」 新潟薬科大学図書館 白鳥 寛 ..... 12

くすりの散歩道 No.52 「フィクションの中の薬剤師」

(財)日本医薬情報センター 医薬文献情報担当 入江 郁恵 ..... 13

外国政府等の医薬品・医療機器等の安全性に関する規制措置情報より-(抜粋) ..... 14

■図書館だよりNo.258 ■情報提供一覧 ..... 15

## 情報探索能力は「神業」



アステラス製薬株式会社 営業本部DIセンター長  
JAPIC理事 藤井 善博 (Fujii Yoshihiro)

本原稿の依頼は残暑の厳しい頃に事務局から頂戴したが、本来筆不精であり、何を書こうかと悶々としているうちに、紅葉の盛りとなってしまった。既に本欄に登場された諸先輩方の様に医薬品情報に対する深い造詣もなく、一方で他人に誇れるような趣味・特技も無いことから、原稿書きに窮するのは当然である。いつもながら後先考えずに「諾」と言ってしまったことを悔やんでいるが、今週末は紅葉狩りを兼ねた秘湯・野湯めぐりを予定しているため、是が非とも書き上げてしまわねばならない。

ということであるいろいろ考えたが、現在私が所属している部署は製薬会社の中でも最も大量、かつ多種多様な医薬品に関わる情報に接している（“おそらく”であるが・・・）という特徴があるので、このような部署で日々仕事をする中で感じている「医薬品情報」に関することをありのままにご紹介することから書き始めたい。この話の行きつく先は自分でも良く判らないが、宜しければ少しの間お付き合い下さい。

DIセンターの主な業務は、医療関係者や患者さんからの自社のくすりに関する相談対応とそのベースとなる自社製品の有効性・安全性・品質に関するデータベース（以下製品情報DB）の構築・維持やFAQ（Frequently Asked Questions）の作成・メンテナンス等である。当センターでは社内外から寄せられる月8,000～9,000件程度の自社のくすりに関するお問い合わせに対応しており、社内では「医薬品情報」の一番の利用者となっている。同時に「医薬品情報」のユーザーのために情報の集約・蓄積・メンテナンスを行っているわけであるが、この双方（情報のヘビーユーザーと情報の管理者）の視点の間で“ジレンマ”を感じる事が間々ある。

即ちヘビーユーザーとしては、活用できる情報はその広がり・深さ、更には過去からの時間軸においても、基本的には多ければ多いほど良いのである。一方、製品情

報DBの管理者としては、情報の量が多くなるほど管理のためのコスト—この場合のコストは主に人手（工数）ということになる—が増大するので、重要度や緊急度を鑑みながら一定のレベルに抑えておきたい訳である。

ただ、これだけであれば許容される範囲内で人手を掛けて対応していけば良いのだが、この製品情報DBはMRを始め社内の全員が利用するので、「使い易さ」の観点からも掲載する情報の種類・量を絞り込む必要があるのだ。即ちアクセス頻度の少ないライトユーザーにとっては情報量が多すぎると、なかなか目的の情報を引き出せず、結果的に使い勝手の悪いものになってしまうのである。一方、製品情報DBを普段から使いこなしているヘビーユーザーにとっては、情報の種類・量が多くても全く問題なく、速やかに目的の情報にたどり着ける。実際ベテランの相談対応要員の情報探索能力と言うのは、目を見張るものがあります。ここで記している製品情報DBに限らず社内外の各種DBを使いこなし、本当にスピーディーに目的とする情報を探し出してくるのである。

更にもう一つベテラン相談対応要員が凄いと感じるところは、私なども「どのように対応して良いのか？」と対応方針について躊躇するようなお問い合わせ、例えばやや漠然としたお問い合わせ等への対応である。当然単一の情報をもって、これが回答ですと言うような提示の仕方は不可能なのである。これに対して彼らはお問い合わせの内容をフレームワーク思考でいくつかのQuestionに分解・構造化し、各Questionに対する情報を提供していき、その積み重ねにより最終的な回答に導いていくのである。科学者やビジネスパーソンにとっては、ごく当り前のことかも知れないが、本当に多種多様なお問い合わせに対し、短い電話応対の中でそれをやり遂げているのである。時には宿題としてお預かりし、折り返しとさせて頂くこともあるが、電話で話しながら、お問い合わせ内容をフレームワークで捉え、情報を瞬時に探索していく

姿は、まるで「神業」である。

大分以前に読んだので記憶が定かでないが、「話を聞かない男、地図が読めない女」という本の中に、「歯磨きの際、男性は洗面の鏡に向かってひたすら手を動かしている。女性は歯磨きをしながら、歩き回ったり、しゃべったりすることができる。」と言うような一節があった。その時は我が家を見て、確かに私と長男は洗面台の前に陣取って無心に手を動かしている。一方、家内と娘たちは、テレビを見たり、PCに向かったり、掃除をしたりである。掃除まで行くと、殆ど歯ブラシを咥えているだけの様でもあるが、そんな姿を見て「なるほど」と感じたことだけは今でも鮮明に覚えている。

何故この様な話をし出したかと言うと、既にお気づきかと思うが、先程の同時並行的に異なった思考・行動を進めるような「神業」は、「女脳」のなせる業かも知れないと思いついたからである。このような器用なことがなかなかできない私にとっては、正に「神業」である。Scienceの裏打ちの有無という大きな違いは別にして、「女脳」の発達した者にとっては「左手で歯磨きをしながら、右手で携帯メールを打ちつつ、テレビを見ている」ようなものなのであろうか？それとも、たゆまぬ修練の賜物なのであろうか？

なお、くすりの相談対応において実力を発揮している男性諸氏も沢山いるので、彼らの名誉のためにも記しておくが、この様な「神業」を発揮するものは女性には限らないということである。また「男脳」的な良さを発揮しているケースも男女を問わず沢山見受けられるので、「男脳」「女脳」のどちらが向いているとか言うことではない。ましてや、男女どちらが向いているとか言うことではない。ただ、私にはこの様な「神業」は難しいなということだけである。ただし、昔の山登り、現在の秘湯・野湯めぐりで培ったお陰で、「地図を読む」のは得意です！

ところで、今「野湯」という言葉を使いましたが、皆さんはこの言葉をご存知でしょうか？Wikipediaによれば、「野湯（のゆ、やとう）とは、自然の中に存在する温泉が自噴しており、かつその源泉を利用した商業施設が存在しない場所のこと」となっている。もともとは昔ながらの湯治場の雰囲気を保った温泉が大好きで、「日本秘湯の会」に参加しているような温泉を四季折々に楽しんでいました。ところがこの様な温泉場には、近くに「野湯」が存在することが多いのです。但し、多くの場所は車で横付けと言う訳にはいきません。もともとは山登りが大好きであったこともあり、自然散策も兼ねて「野湯」を楽しむようになったのだが、大自然の中で「野湯」に浸かっていると自分が自然と一体になったような感覚になり、すべてのストレスから解放されるばかりか、自然の持つパワーをたっぷりもらえるので、今ではすっかり病みつ

きです。因みに今週末は、宮城・秋田・岩手の三県にまたがる栗駒山の周りに位置する鬼首温泉や川原毛大湯滝、更に足を延ばして夏油温泉等を巡る予定である。また、比較的最近行った所では、北海道の屈斜路湖・藻琴山麓にある野湯（ここは名前も付いていない？）や十勝岳山麓にある吹上露天の湯が印象的でした。

閑話休題。冒頭医薬品の情報を取り扱う上での「量vs.使い易さ」「量vs.維持・管理」のジレンマについて触れた所から随分と脱線してしまいましたが、情報開示の「スピードvs.精度」というジレンマもある。このことは、原発事故の報道を見聞きしている際にも強く感じた所であり、スピードと精度のバランスのあり所にも常々心を砕いている。

更に世の中では企業の情報開示の必要性が叫ばれており、社内でも情報共有のためのシステムの充実とともに、取り扱う情報は加速度的に増えてきている。社内外の顧客に向けて「適正使用推進のための医薬品情報の提供」の任に当たる部署として、情報洪水に加担することにならない様に留意し、「伝えるべき情報」「ご要望に応じて伝える情報」を適切に判断すること、受け手の情報リテラシーに応じて適切に情報提供することも大切にしなければならないと考えている。

今回改めて医薬品情報について考える貴重な機会を頂き、「医薬品情報そのもの、及びそれを適切に取り扱うことの重要性」を改めて実感した次第である。正にJAPICの活動の意義もここにあり、当センターとしても今まで以上にJAPICの情報を活用させて頂き、より良い情報提供に繋げていきたい。



2011年11月初旬の秋田県湯沢市川原毛大湯滝  
滝壺が自然の温泉となっている。この時期が  
入湯可能なギリギリの時期かも知れない。



# Information

## JAPIC-Qサービス ユーザ会を開催します

「平成23年度JAPIC-Qサービスユーザ会」を開催いたします。

JAPIC-Qサービスの概要・提供報告および来年度からのサービス拡充についてご説明いたします。新規入会をご検討中の方は、JAPIC-Qサービス担当までお問合せください。多数のご出席をお待ち申し上げます。

〈大阪会場〉

日時： 平成23年11月29日（火） 13:40～17:00（受付開始13:00～）

場所： プリーゼプラザ 805号会議室

〒530-0001 大阪市北区梅田2-4-9 プリーゼタワー8階

〈東京会場〉

日時： 平成23年12月5日（月） 13:30～17:20（受付開始13:00～）

場所： 日本薬学会長井記念館 1階会議室

〒150-0002 東京都渋谷区渋谷2-12-15 長井記念館

■お問合せ先

JAPIC-Qサービス担当 TEL:03-5466-1821 e-mail:japic-q@japic.or.jp

## 第137回薬事研究会 開催案内

薬事研究会を開催致します。薬害肝炎検証・検討委員会の最終提言を受けた医薬品等制度改正が検討されており、制度改正案の基本的な方向性・骨格が明らかになってきています。安全対策への取り組みの促進については、医薬品リスク管理計画（RMP）ガイダンス案が示され（4月公表、10月末までパブリックコメント）、添付文書の公的位置づけなどが医薬品等制度改正検討部会で議論されているところです。

薬事研究会では法改正の動きを追って、今回テーマとして「医薬品リスク管理計画（RMP）」を取り上げ、行政および企業の方にご講演いただきます。

■日時：平成23年12月14日（水） 14:00～16:20

■場所：日本薬学会長井記念ホール（東京都渋谷区渋谷2-12-15長井記念館）

■プログラム

テーマ：医薬品等の安全対策について

「医薬品リスク管理計画（RMP）について～日・米・欧の比較等」

14:00～14:05 主催者挨拶

14:05～15:05 独立行政法人医薬品医療機器総合機構安全第二部 佐藤 淳子 先生

15:05～15:20 休憩

15:20～16:20 日本イーライリリー株式会社信頼性保証本部安全性情報部 前田 玲 先生

\*演題・講師・時間等、一部変更になる場合もございますので、予めご了承ください。

■参加費：JAPIC会員 1名3,000円 非会員 1名5,000円

■申込方法：JAPICホームページ講演会・ユーザ会入力フォームからお申込下さい

■お問合せ先：事務局 業務渉外担当（TEL：0120-181-276）

## 年末年始休業のお知らせ

平成23年12月29日（木）～平成24年1月4日（水）まで休業し、新年は1月5日（木）より業務を開始いたします。

## JAPIC AERS (ジャピック・エアーズ) ビューアお試し版のご案内

### ■JAPIC AERSビューアとは？

JAPIC AERSビューアはJAPIC AERS データを使用してのシグナル検出結果を様々な角度から視覚的に見やすくしたものです。

JAPIC AERSデータは米国FDAより公開されている大規模有害事象自発報告データベース「AERS」のデータの重複を除去し、医薬品名クリーニングを行い、さらに成分名、ATC分類、MedDRA/Jを付与したものです。1997年～2011年第1四半期までの有害事象症例数は3,196,143件（重複除去後、重複率は25.38%）に上ります。

今回、このJAPIC AERS データを使用し、シグナル検出を行い、その結果をビューアに入れてお返しするお試し版を企画いたしましたのでご案内いたします。

### ■お試し版仕様

- ・試してみたい医薬品名（1品目）をご連絡いただきます。
- ・この医薬品名について成分名単位でシグナル検出（ROR,PRR法）を行い、その結果をビューアに入れてお返しいたします（CD-ROMまたはDVDで送付）。

★検索範囲は原則として2005年第1四半期から2010年第4四半期までとします。

★動作環境として「Microsoft .NET Framework」が必要です。

### ■ビューアでご覧いただける主な機能

- ・お申し込みいただいた医薬品についての有害事象一覧と報告件数、シグナル値一覧
- ・ヒートマップ表示機能：予めシグナルの閾値を入れることにより閾値を超えた有害事象が色で表示されます。
- ・ISR（症例情報：疾患名、性別、年齢など）一覧表示
- ・背景因子をグラフで表示
  - 疾患別、性別、年齢などの背景因子をグラフで表示
- ・ケースカード表示機能（1例毎の内容がわかります）
- ・ボックスプロット
  - 有害事象をSMQでまとめ、SMQ単位での有害事象の出現傾向を見る事ができます
- ・時系列グラフ表示機能

### ■お試し期間

平成23年11月7日（月）より平成23年12月22日（木）まで

### ■料金：無料

### ■お試し版お申込方法

会社名・ご担当者名・住所・電話番号・メールアドレスを明記し、下記へ送信下さい。

email: kaihatsu@japic.or.jp

弊センターより申込書をお送りいたします。

### ■お問合せ先： 開発企画担当 03-5466-1837 (TEL)

この機会に是非ご利用いただきますようご案内いたします。

## JAPIC Daily Mailの調査対象サイト拡大のお知らせ —フランスの規制当局Afssapsを追加！

2011年10月末より、JAPIC Daily Mail\*の調査対象サイトに、予てよりご要望をいただいておりますフランスの規制当局Afssapsを追加致しました。

### \*JAPIC Daily Mail とは

米FDA、CDC、英MHRA、スウェーデンMPA、独BfArM、カナダHealthCanada、豪TGA、ニュージーランドMedsafe、EU・European Medicines Agency、WHOおよび日本の規制当局などのホームページ（82サイト）を毎日チェックし、医薬品・医療機器等の安全性に関する措置情報の概要を日本語に翻訳し、掲載ページのURLを併記して、電子メールにより即日提供するサービスです。GVP/GPSPの一部改正に伴う外国措置情報の収集等の業務支援を行っています。

# ❖ JAPICサービスの紹介 ❖

## ■ 附属図書館

(財)日本医薬情報センター附属図書館は医薬品に関する資料を収集し、一般に公開しております。また、著作権法第31条の「図書館資料の複製が認められる施設」として、昭和48年政令に基づき国の指定を受けております。

開館日/時間	月～金/9:00～17:30 (複写受付 9:30～17:30 ※即日処理は9:30～16:30)
休館日	土・日・祝祭日、年末年始(12月29日～1月4日) 創立記念日(12月1日)
入館・閲覧	一般公開ですので、どなたでもご利用いただけます。 入館手続きを済ませてからお入りください。 貸し出しはいたしません。 パソコン等の機器類の使用はご遠慮いただいております。
レファレンスサービス	所蔵資料について、電話、FAXによるお問い合わせに応じております。
主な蔵書 (2011年1月現在)	逐次刊行物(国内雑誌629種、外国雑誌62種)、世界の医薬品集・薬局方、治験薬、名称・同義語集、各国の薬事規制資料、医薬品安全情報、他関連書籍。

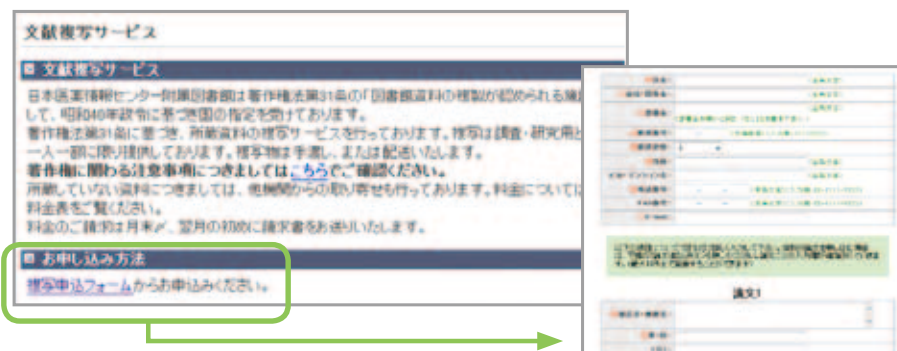
## 附属図書館ホームページからご利用いただける図書館サービス (URL: <http://www.japic.or.jp/service/library/index.html>)



### ◆【文献複写サービス】(ホームページから申し込みできます)

著作権法第31条に基づき、所蔵資料の複写サービスを行っており、複写は調査・研究用として一人一部に限り提供しております。複写物は手渡し、または配送いたします。所蔵していない資料につきましては、他機関からの取り寄せも行っております。文献複写の申込はホームページの「文献複写フォーム」から承っております。ぜひご利用ください。

また、JAPIC維持会員の方は、iyakuSearchの検索結果から直接複写の申込をすることもできます。詳しくは図書館のホームページの文献複写サービスでご確認ください。



◆【蔵書検索・新着案内】メニュー画面

検索一覧	案内・お知らせ
<ul style="list-style-type: none"> <li>・図書/雑誌(全資料)横断検索</li> <li>・図書/雑誌 詳細検索</li> <li>・雑誌タイトル検索</li> <li>・雑誌タイトル一覧</li> <li>・学会開催情報検索</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・お知らせ</li> <li>・図書新着案内</li> <li>・雑誌新着案内</li> <li>・HELP</li> </ul>

・図書／雑誌(全資料)横断検索

雑誌名、特集記事、書名、著者名、出版社名から横断的に検索できます。

・図書／雑誌 詳細検索

条件を絞り込んで検索でき、検索キーワードをAND、ORに加えてNOTで検索できます。

・雑誌タイトル検索

雑誌名、ISSNから検索、所蔵確認ができ、出版年で絞り込むこともできます。

・雑誌タイトル一覧

図書館所蔵雑誌の一覧。出版社名、ISSN、所蔵している巻・号、発行頻度が参照できます。

・学会開催情報検索

日本国内で開催される医学・薬学関係の学会、研究会、国際会議、シンポジウムなどの開催情報を掲載。年間の抄録集・プログラム等収集数は4,000件を越す数となっております。

・図書新着案内

月一回程度更新。過去一ヶ月の間に附属図書館で受け入れた図書の案内です。

・雑誌新着案内

毎日更新。新着雑誌リストと主な雑誌の目次をPDFで公開しております。また許可を得られた出版社へのホームページにリンクを張っております。

◆その他特殊資料

(図書館では、重要な資料と位置づけ収集に努めております。最新版等、詳しくは【蔵書検索・新着案内】をご覧ください。)

・【世界の医薬品集・価格表】(55カ国160種)

(URL : [http://www.japic.or.jp/service/library/cou\\_document.html](http://www.japic.or.jp/service/library/cou_document.html))

・【世界の公定書(薬局方・薬局方外規格等)】(21カ国)

(URL : [http://www.japic.or.jp/service/library/cou\\_official.html](http://www.japic.or.jp/service/library/cou_official.html))

## ■ 鈴鹿医療科学大学でiyakuSearch検索実習を実施

平成23年10月5日(水)11時より鈴鹿医療科学大学薬学部医薬品情報学 山本美智子教授の講義に於いてJAPIC医薬品情報データベースiyakuSearchの検索実習を実施しました。当日は4年生90名が演習室に集まり90分の講義時間でJAPIC職員が講師となりパソコンを立ち上げるところから始め、概要説明、検索例題を通してデータベースの特長を理解してもらいました。はじめての取組ということもありPCの状態や検索方法に若干反省を残しましたが、終了後寄せられた感想文にはiyakuSearchについての理解が進み有効に活用できるようになったとの書き込みが多数あり実習が役立つことを実感しました。今後も会員機関のご希望に応じ今回のような検索実習の

お手伝いをさせていただき予定しております。(関心のある方はTEL:0120-181-461までお問い合わせください)





# 海外で承認された医薬品(17)

JAPICでは、医薬品の有効性・安全性・規制・承認に関する海外の情報を収集し、各種媒体で提供を行っております。本シリーズでは、海外で承認された医薬品のうち、米国、EUにおける新有効成分 (New Molecular Entity : NME) 医薬品を中心に随時紹介します。

◆**米国：鉄キレート剤Ferriprox (deferiprone) 承認**  
承認日：2011年10月14日

米国FDAは、ApoPharma Inc.のFerriprox (deferiprone) を承認した。経口用鉄キレート剤で、通常のキレート療法が不適切な場合の、サラセミア症候群による輸血後鉄過剰患者の治療に使用される。推奨開始用量は25mg/kgを1日3回経口投与、最大用量は33mg/kgを1日3回。この疾患に対する治療薬をFDAが承認したのは2005年以来である。

Ferriproxの安全性と有効性は、12の臨床試験における患者236例のデータ解析に基づいて評価した。試験参加患者は、通常の鉄キレート療法が無効かまたは忍容性不良により不適切な輸血後鉄過剰患者であった。Ferriprox治療は血清フェリチンの減少に有効であり、患者236例中50%において、エンドポイントである血清フェリチンの20%以上減少が認められた。

Ferriprox 投与患者に認められた最も一般的な副作用は嘔気、腹痛、関節痛、着色尿、好中球減少、肝酵素値上昇であった。Ferriprox 投与患者の約2%にみられた最も重篤な副作用は無顆粒球症であった。枠囲み警告に、Ferriproxは無顆粒球症を引起することがあり、重篤な感染症や死に至る恐れがあるとの記載がある。本キレート療法は、医薬品の臨床ベネフィットを確認するための市販後臨床試験を条件とする、迅速承認プログラム (accelerated approval program) により承認された。

(EU：承認済、国内：開発なし)

◆**EU：院内肺炎治療薬Vibativ (telavancin) 承認**  
承認日：2011年9月2日

EU・EMAは、Astellas Pharma Europe B.V.のVibativ (telavancin) を承認した。Vibativの有効成分telavancinはグリコペプチド系抗菌剤で、ペプチドグリカン合成阻害作用および細菌脂質合成阻害作用を有する。Vibativは、メチシリン耐性黄色ブドウ球菌 (MRSA) に起因することが判明している、または疑われる院内肺炎と人工呼吸器関連肺炎など、院内肺炎を発症した成人の治療に使用される。Vibativは1日1回投与の注射剤で、推奨投与量は10mg/kgを24時間毎に1回、7～21日間、60分以上かけて静注する。250mg、750mg Powder for solution for infusion。

Vibativの有効性は、グラム陽性菌に起因する院内肺炎の成人患者1,503例を対象に、2つの主要な試験においてvancomycinと比較検討された。薬剤は21日間投与された。Vibativはまた、グラム陽性菌に起因する複雑性皮膚・軟部組織感染症の成人患者1,897例を対象に、2つの主要な試験においてvancomycinと比較検討された。薬剤は14日間投与された。全試験において有効性の主要評価項目は、治療終了後の感染治癒率とした。

Vibativは院内肺炎および複雑性皮膚・軟部組織感染症の治療においてvancomycinと同程度の効果が示された。院内肺炎患者における治癒率は、最初の試験ではVibativ投与群58%、vancomycin投与群59%、二番目の試験では、それぞれ60%、60%であった。複雑性皮膚・軟部組織感染症患者における治癒率は、最初の試験ではVibativ投与群76%、vancomycin投与群75%、二番目





の試験では、それぞれ77%、74%であった。

Vibativ投与患者に認められた最も一般的な副作用は味覚障害、嘔気であった。Vibativ投与患者ではvancomycin投与患者に比べて腎障害がより多く認められた(3.8%対2.2%)。Vibativは重度の腎障害または急性腎不全の患者、および妊婦には投与するべきではない。

EU・CHMP(欧州医薬品委員会)は、Vibativは院内肺炎と複雑性皮膚・軟部組織感染症の両方の治療に有効であることが示されたが、腎臓に対する毒性作用の重大な安全性の懸念があるとした。しかし、VibativはMRSAに起因することが判明している、または疑われる院内肺炎で、他の治療が不適切な患者の治療に有益であると判断し、院内肺炎の患者に対してVibativのベネフィットはそのリスクを上回るとして、販売承認を勧告した。

(米国:承認済(複雑性皮膚・軟部組織感染症の適応)、国内:Phase I(MRSA感染症の適応))

腫治療(Adcetris)、および他の重篤かつ生命を脅かす疾患などの治療において重要な進展をもたらした。

35剤のうち、24剤(約70%)が世界で初めて米国で承認され、約半数の16剤は審査期間目標値6ヶ月の優先審査(priority review)の対象であり、3剤は市販後試験を条件とする迅速承認(accelerated approval)であった。34剤はPDUFA(処方箋薬ユーザーフィー法)により企業と合意した審査完了目標日までかそれ以前に承認され、癌治療薬の3剤は6ヶ月以内に承認された。7剤は癌治療における大きな進歩をもたらし、うち2剤は肺癌、メラノーマの新しい治療でオーダーメイド医療における画期的製品であり、診断テストも同時に承認された。10剤はオーファンドラッグ(希少疾病用医薬品)であった。

出典:「FY 2011 Innovative Drug Approvals」、FDA News Release、Drugs@FDA、EU・EMA EPARなど

(医薬文献情報担当・海外)

### ◆米国:2011会計年度の新薬承認は35剤

米国FDAは11月3日、報告書「FY 2011 Innovative Drug Approvals」を公表した。その報告書によると、2011会計年度(2010年10月1日~2011年9月30日)にFDAが承認した新薬は35剤で、これは過去10年間では2009年の37剤に次いで多い承認数である。これら新薬は、C型肝炎治療(Victrelis、Incivek)、末期前立腺癌治療(Zytiga)、狼瘡治療(Benlysta)、ホジキンリンパ



# 薬学教育の現場から

## 生きた薬学を学ぶための 帝京平成大学の取り組み



帝京平成大学 薬学部  
准教授 齋藤 充生 (Saito Mitsuo)

### 1. 帝京平成大学薬学部について

本学は、昭和62年に設立された帝京技術科学大学を前身としており、平成7年に帝京平成大学に改称し、現在は薬学部、現代ライフ学部、ヒューマンケア学部、健康メディカル学部、地域医療学部の健康・医療・福祉・情報・教育を軸とする総合大学となっている。薬学部は平成16年に市原市の千葉キャンパスに開設され、来春、初の6年制の卒業を控えている。6年制薬学教育では、4年時の共用試験、5年時の医療機関における実務実習を経て、薬剤師国家試験の受験資格が与えられる。

本学の建学の精神は、「実学の精神を基とし、幅広い知識と専門分野における実践能力を身につけ、想像力豊かな逞しい人間愛にあふれた人材を養成する」である。人間性豊かな人格形成に基づく薬剤師の育成、帝京大学グループのスケールメリットを生かした実践的医療薬学教育、学生の個性を伸ばすカリキュラムと指導体制により、医療人として他の医療従事者や患者との連携・コミュニケーションと最新の設備での最前線の薬学研究を教育の重点としている。

### 2. 本学に特徴的な教育研究について

本学では、医療現場の科学者を目指して、充実した環境で医療現場に密着した教育研究を行っている。医療従事者としてのヒューマンズムに重点が置かれており、私の分担科目ではがん患者、薬害被害者などによる講演と、それに引き続くスモールグループディスカッションを実施した。また、麻薬の功罪への理解を深めるため、麻薬取締官による講演も実施した。私の前職は厚生労働省であり、薬学生を対象にこのような講義を行うことは感慨深い。

また、本学部では医療従事者と患者間のコミュニケーション・相互理解を深めるため、異文化コミュニケーションのワークを用いて体験的に考える授業を行っており、患者対応について、医療系総合大学として看護、理学・作業療法の学生との合同授業を実施している。健康と安全を支える最先端の研究としては、機器分析の理論を応用した薬局の在庫管理、タミフル販売量からインフルエンザの流行を予測する研究や、薬学教育及び医療支援ソフトの研究を行っている。分子生物学等の教育においても、社会で実際に使える手法や知識、考え方を身につけられる指導を行い、例えば医薬品開発に関する講義では、医薬品がどのように企画・開発され、患者さんに使われるのか、実際に企業で研究開発に携わった先生方、医療現場で働いていた先生方からの話を聞くことで、大学の学びが社会に役立つことが分かり学習のモチベーションにつながると考えられる。このように本学では、社会で役立つ研究についての学生への啓発を心がけており、5年次の卒業研究では、学生の関心に応じて、各分野の実際の研究の一端に触れることができるようになっており、学内外での研究発表の場も与えられている。私の卒業研究グループではスイッチOTCの動向についての調査研究を行い日本医薬品情報学会で発表した。

### 3. 大学院設置について

わが国では、医療費が国民の負担限度を超えて高騰し、安全・安心な医療を維持することも脅かされている。その背景には、人口の高齢化や生活習慣の欧米化による疾病構造の変化、医療の高度化、過剰ともいえる医療提供がある。現在、将来に亘って持続可能な医療システ

ムとして、「チーム医療に基づく地域連携クリニカル・パス」の構築が急がれており、薬剤師には薬剤の専門家としての責任が求められている。本学では、これまでの学部における取り組みを踏まえ、平成24年4月より大学院を設置する。一般的な大学院は4年制大学を卒業後、2年間の修士課程、3年間の博士課程からなるが、本学部は6年制のため大学院は4年制の博士課程（薬学専攻）となる。

本大学院では、「医薬品の創製」、「医薬品の使用」、「医薬品の社会との関わり」など、薬が関係している様々な分野の指導者を養成することを目指し、以下の3分野を主要な研究分野として教育・研究を実施する。

#### 1) 医療実践研究分野

(Pharmacist Career Path Design Research)

本研究分野では、「コミュニケーション能力」や「フィジカル・アセスメントなど、科学的根拠に基づいて薬物療法を行う能力」を中心に、高い専門性を具え、チーム医療を牽引できる「在宅・地域医療のスペシャリスト」を養成する。そのような薬剤師は、在宅医療を中心とする、これからの地域医療のコンダクター役として活躍するばかりでなく、病院薬剤師とのいわゆる薬・薬連携や、専門性向上をベースにした薬剤師の職域拡大においても重要な役割を担うことが期待される。

#### 2) 創薬・橋渡し研究分野 (Translational Research)

本研究分野では、「新規の疾患関連タンパクを標的としたケミカル・バイオロジー研究」、及び「未活用の科学技術や創薬資源を応用した実用化研究」を両輪として、分子標的薬、抗体薬の探索・開発研究を推進し医療に貢献する。キャリア・パスとしては大学・研究所に加え、医療系薬学に関する研究活動を通して、臨床に従事しながら研究できる、あるいは臨床の経験を生かして他の研究職域で活躍できる、広い視野・優れた研究能力・高い研究マインドを具えたいわゆるpharmacist-scientistとして病院・薬局などの医療機関、企業における医薬品開発などでの活躍も想定している。

#### 3) 医薬評価・規制研究分野

(Regulatory Science Research)

医薬品は生命・健康の維持・改善に直接係ることから、

それらの開発や適正な使用について、薬学には大きな社会的責任がある。例えば、医薬品の開発には薬害・副作用事故などを回避するため、多くの規制がなされている。従って、安全で効率的な医薬品の開発には、「開発と規制の調和」を図る必要がある。また、人口の高齢化を背景に医療費が高騰しているが、その適正化には、「医療と経済の調和」を図る必要がある。しかしながら、これまでの薬学教育では、このようなレギュラトリー・サイエンスに関する体系的な教育は殆どなされていない。本研究分野では、これら「開発と規制の調和」、「医療と経済の調和」の2つに主要な課題として焦点を合わせ、薬と社会の関わりについて見識を具える専門家を養成し医療に貢献する。また、あわせて、薬剤師の職能教育や、高齢者の健康維持などを支援するICTソフトを開発し、これまでにない手法として医療支援に応用することとしている。私は前職の審査・安全業務の経験を生かし、主に「開発と規制」を担当し「ICTソフト開発」にも協力する予定である。

いずれの分野においても、本大学院ではリサーチ・ワーク（必要に応じ医療機関、研究機関、企業でのインターンシップ）と、科目を履修するコース・ワークを組み合わせ教育課程を編成し、科目履修では、座学・演習・研修などが年次進行の中で体系化されている。また、授業開講の日時やリサーチ・ワークの実施場所については、病院、薬局等の医療機関や企業・行政等で働きながら学位取得を目指す社会人大学院生への配慮を行う。大学院の募集については、本学のホームページ (<http://www.thu.ac.jp>) などで案内するので、関心のある方はご覧いただきたい。

#### 4. 中野キャンパスへの移転について

現在、工場等制限法の廃止による大学の立地制限の緩和を受けて、大学の都心回帰の動きが盛んである。本学部も都心の利便性と最新の設備を求め、東京の中野駅周辺まちづくりの文教地区にある中野キャンパスに平成25年4月に移転予定である。これは学生、教職員にとり教育研究上の刺激となるが、特に社会人大学院生にとっては、通学の利便性が高くなることが期待される。



# 会員の声

## 人生の楽しみ—図書館とピアノと猫と…

新潟薬科大学図書館

白鳥 寛 (Shirotori Hiroshi)



### はじめに

この「会員の声」に寄稿するよとのメールをいただき、あらためて、バックナンバーを拝見したら、書かれている皆さんは若い人ばかりで私のような間もなく定年を迎える老兵が出る幕ではないとは思った。しかし、本学と日本医薬情報センター（以下、JAPIC）とは30年以上のお付き合いがあり、無碍には断れない。そこで、少しでもお役に立てばとお引き受けした次第である。

### 新潟薬科大学図書館について

本学は昭和52年4月に日本海を間近に望む新潟市の西の位置に誕生した。当時はまだ規制緩和なるものが存在しない時代で、全国的に薬科大学の数も今ほど多くなかった。その後、大学は幾多の困難を乗り越えてきたが、平成18年4月に現在地の新潟市秋葉区（旧新津市）に薬学部は完全移転した。現在、新潟薬科大学は薬学部と応用生命科学部とを併設する全国でもユニークな薬科大学として卒業生を世に送り出している。この図書館は蔵書数約53,000冊、電子ジャーナル約360種、データベース2種の小規模なものである。

### JAPICとの関わり

JAPICには本学が設立されると同時に加入した。初代学長安江先生が新潟薬科大学を新潟県の医薬情報の中核にしたいという理想の下にこのJAPICに加入したと聞いている。JAPICの初代理事長久保文苗氏が新潟県村上市出身で、更に氏と安江政一先生が同じ東大卒という繋がりがあったことも伺っている。今ではコンピュータで医薬品等を検索するが、当時はまだコンピュータとは言わず、電子計算機という言葉が普通で、文字通り計算が主だということもあり、一般の人には馴染みがなかった。その当時、JAPICからは毎週日本医薬文献抄録のカードが段ボールに入ったまま送られてきた。その頃の医薬品情報は紙に印刷されたパンチカードで、大きな針のようなものをカードの脇の穴に差し込んで検索していた。今の若い人は想像できないであろう。当時、本学でそれを使いこなせる人は多くなかったと思われる。当時の私は図書館業務から離れていたので詳細は分からない。その後、図書館に戻ってからまもなく、現在の長井記念会

館が出来る前に一度だけJAPICにお邪魔したことがある。その時、担当者から親切に案内していただいた。このようにJAPICとは長いお付き合いがある。現在でも本学の教員が医薬品情報データベースを利用させてもらっているとのことである。当図書館では本誌（JAPIC NEWS）の他に医薬関連情報等を受け入れているが、「JAPIC医療用医薬品集」などはその時期になると学生が医薬品を調べる時によく集団で利用している。

### 現在関心のあること

少し私的なことにも触れておこう。私は当図書館に関わって既に40年近くが過ぎ、まもなく定年を迎えるが、今後も機会があれば図書館に携わっていきたく思っている。我々の世代は仕事一筋が当たり前であったが、今後は少し余暇を楽しもうと思っている。私は残念ながら、楽譜を読めないが、子どもの頃からの憧れであったピアノを文字通り60の手習いで、習っている。ご指導をくださるヤマハの若くて美人の熊木先生は「発表会当日は楽譜を見ないで、弾かないと音楽になりませんよ!!」と大変厳しいことをあの優しいお顔で仰る。そんな厳しい指導に耐えながら、発表会も今年の夏で、既に4回目を無事終えた。難しい曲はとても無理ではあるが、人生の一つの目標ができたようで毎日が楽しい。毎晩のピアノの練習のために、大好きな晩酌も週末だけに減らした。

一方、県内大学の若い図書館員から、ツイッターの誘いを受けて、今はそれにも精を出している。その他に同級会や図書館員等のメーリングリストを3件ほど主宰している。そして、休日には二匹の愛猫の頭を撫でたり、少し遠くまで散歩したりしているが、これらのことが、私にとってはリフレッシュになっているのかも知れない。

ところで、今は国立の大学院に進学している本学の卒業生のTさんが、当館に遊びに来た時に「私にとって図書館は論文等の資料を探すのには絶対になくはならないのです!!」と強く言ってくれた言葉を私は大事な宝物として、定年まで残り少ない図書館業務の時間をこれからもしっかりとこなしていきたいと思っている。

最後になったが、競争が厳しいと思うが、JAPICはこれからも医薬品情報を提供する要の機関として、ますます活躍していただきたいと念願する次第である。

# くすりの散歩道

NO.52

## フィクションの中の薬剤師

(財)日本医薬情報センター 医薬文献情報担当  
入江 郁恵 (Irie Ikue)



本が好きです。

特に小説が好きで、興味の向くままにいろいろと読み漁っています。

薬学部に入り、薬剤師という職業のことを知りたかったとき、ふと、今まで薬剤師が登場する小説を読んだことがないことに気がきました。

考えてみると、小説に限らず、医療現場が描かれる漫画やドラマでも、薬剤師が登場するものは思いつきません。「白い巨塔」「チーム・バチスタ」シリーズ、「医龍」「ギネ」「神様のカルテ」…。医師と看護師は当然のように登場するのに、現実の現場にいるはずの薬剤師は登場しない。

薬剤師が登場する小説は存在しないのか?と疑問に思い、あるときGoogleで検索してみました。すると、高田崇史の「QED」シリーズというものに行き当たりました。

どんな話なのだろう、とシリーズ第1作「QED 百人一首の呪」を読みました。

推理小説で、ホームズ役の桑原崇は漢方薬局で働く薬剤師、ワトソン役の柵旗奈々も調剤薬局で働く薬剤師でした。少しネタバレになりますが、作中である人物が「幽霊を見た」と錯覚する場面があります。その原因が「チーズ、レバー、ワインの同時摂取によるMAO阻害剤の副作用増強」とされていた部分はとても薬学的だと感じましたが、本筋は殺人事件と百人一首に関する文学的・歴史的謎解きがメインで、医療現場で活躍する薬剤師の姿は描かれていませんでした。

ところで、QEDシリーズの作者の高田崇史は明治薬科大卒の薬剤師免許取得者だそうです。

薬剤師免許を持っている作家は他にも、横溝正史、瀬名秀明などがいます。横溝正史は金田一耕助シリーズで有名ですが、御存知のとおりドロドロの推理小説で薬剤師が活躍する余地はあまりなさそうです。瀬名秀明の「パラサイト・イヴ」も読んでみましたが、ホラー小説で薬剤師は登場しませんでした。

薬剤師が医療現場で活躍する小説について考えているうち、そもそも小説には「医薬品」が登場させていくのではと思いました。

医薬品、特に商品名で医薬品を語る場合、「嘘」を書くことができませんから、現実的にならざるを得ず、それはフィクションの面白さから遠ざかることになってしまうのではないのでしょうか。

医療現場で活躍する薬剤師を描くためには「医薬品」は外せません。医薬品を書くことに制約がある以上、薬剤師が小説の中で活躍することは難しいのかもしれない。

それでも、いつか、医療現場で薬剤師が活躍する小説を読みたいと思っています。その小説の中では、薬剤師はどんな風に描かれるのでしょうか。



# 外国政府等の医薬品・医療機器等の 安全性に関する規制措置情報より – (抜粋)

2011年10月3日～10月31日分のJAPIC WEEKLY NEWS (No.323-327)の記事から抜粋

## ■米FDA

- Sprycel (dasatinib) : 肺動脈高血圧症リスクについて  
<<http://www.fda.gov/Safety/MedWatch/SafetyInformation/SafetyAlertsforHumanMedicalProducts/ucm275176.htm>>
- Chantix (varenicline)と精神神経系有害事象リスクの安全性評価 (最新情報)  
<<http://www.fda.gov/Safety/MedWatch/SafetyInformation/SafetyAlertsforHumanMedicalProducts/ucm079818.htm>>
- Drospirenoneを含有する経口避妊薬: 血栓のリスク増加の可能性 (最新情報)  
<<http://www.fda.gov/Safety/MedWatch/SafetyInformation/SafetyAlertsforHumanMedicalProducts/ucm257337.htm>>
- Linezolid (Zyvox) とセロトニン作動性精神病治療薬の相互作用に関する最新情報  
<<http://www.fda.gov/Drugs/DrugSafety/ucm276251.htm>>
- Methylene blue (methylthioninium chloride) とセロトニン作動性精神病治療薬の相互作用に関する最新情報  
<<http://www.fda.gov/Drugs/DrugSafety/ucm276119.htm>>
- Recombivax HB (組換えB型肝炎ワクチン) : 添付文書の改訂; 有害事象の項目にブドウ膜炎の記載を加えることなど  
<<http://www.fda.gov/BiologicsBloodVaccines/Vaccines/ApprovedProducts/ucm274859.htm>>

## ■Health Canada

- STRATTERA (atomoxetine) : 血圧上昇および心拍数増加と関連する  
<[http://www.hc-sc.gc.ca/dhp-mps/medeff/advisories-avis/prof/\\_2011/strattera\\_2\\_hpc-cps-eng.php](http://www.hc-sc.gc.ca/dhp-mps/medeff/advisories-avis/prof/_2011/strattera_2_hpc-cps-eng.php)>

## ■EU・EMA

- Pioglitazoneと膀胱癌リスクに関する見解を明確化  
<[http://www.ema.europa.eu/docs/en\\_GB/document\\_library/Press\\_release/2011/10/WC500116936.pdf](http://www.ema.europa.eu/docs/en_GB/document_library/Press_release/2011/10/WC500116936.pdf)>
- 非選択的NSAIDsの心血管リスクに関して新たなレビューを開始  
<[http://www.ema.europa.eu/docs/en\\_GB/document\\_library/Press\\_release/2011/10/WC500116887.pdf](http://www.ema.europa.eu/docs/en_GB/document_library/Press_release/2011/10/WC500116887.pdf)>

## ■独BfArM

- Pelargonium含有医薬品に関連した肝障害について  
<<http://www.bfarm.de/DE/Pharmakovigilanz/stufenplanverf/Liste/stp-pelargonium.html>>
- Revatio (sildenafilcitrat (sildenafil citrate)) : 肺動脈性肺高血圧症 (PAH) の小児患者における死亡率のリスク増加について  
<<http://www.bfarm.de/DE/Pharmakovigilanz/risikoinfo/2011/rhb-revatio.html>>
- Methergin (methylergometrinmaleat (methylergometrine maleate)) : Methergin経口溶液の市場撤退とMethergin注射液の使用に関する安全性情報  
<<http://www.bfarm.de/DE/Pharmakovigilanz/risikoinfo/2011/rhb-methergin.html>>
- Revlimid (lenalidomid (lenalidomide)) : 二次性の原発性悪性腫瘍の発生リスクについて  
<<http://www.bfarm.de/DE/Pharmakovigilanz/risikoinfo/2011/rhb-revlimid2.html>>
- Pradaxa (dabigatranetexilat (dabigatran etexilate)) : 腎機能モニタリングの必要性について  
<<http://www.bfarm.de/DE/Pharmakovigilanz/risikoinfo/2011/rhb-pradaxa.html>>

## ■豪TGA

- Topiramate : 減量目的の使用に関する有害事象について  
<<http://www.tga.gov.au/safety/alerts-medicine-topiramate-111004.htm>>
- Dabigatran (Pradaxa) : 使用に関連した出血リスクについて  
<<http://www.tga.gov.au/safety/alerts-medicine-dabigatran-111005.htm>>

JAPIC事業部門 医薬文献情報 (海外) 担当

記事詳細およびその他の記事については、JAPIC Daily Mail (有料) もしくはJAPIC WEEKLY NEWS (無料) のサービスをご利用ください (JAPICホームページのサービス紹介: <<http://www.japic.or.jp/service/>> 参照)。JAPIC WEEKLY NEWSサービス提供を御希望の医療機関・大学の方は、事務局業務・渉外担当 (TEL 0120-181-276) までご連絡ください。



### 【新着資料案内 平成23年10月11日～平成23年11月2日受け入れ】

図書館で受け入れた書籍をご紹介します。この情報は附属図書館の蔵書検索 (<http://www.libblabo.jp/japic/home32.stm>) の図書新着案内でもご覧頂けます。これらの書籍をご購入される場合は、直接出版社へお問い合わせください。閲覧をご希望の場合は、JAPIC附属図書館 (TEL 03-5466-1827) までお越し下さい。

〈配列は書名の五十音順〉

書名	著编者	出版者	出版年月
British National Formulary No.62	John Martin ed.	BMJ Publishing Group	2011年9月
European Pharmacopoeia 7th edition Supplement 7.4	Council of Europe	Council of Europe	2011年10月
MRテキストI 医薬品情報 2012	南山堂 編	MR認定センター	2012年1月
MRテキストII 疾病と治療 2012 基礎	南山堂 編	MR認定センター	2012年1月
MRテキストIII 疾病と治療 2012 臨床	南山堂 編	MR認定センター	2012年1月
MRテキストIV 医薬概論 2012	南山堂 編	MR認定センター	2012年1月
医薬品・医療機器G L Pガイドブック2011	日本薬剤師研修センター 編	薬事日報社	2011年9月
医療用医薬品識別ハンドブック2012年版	医薬情報研究所 編	じほう	2011年9月
オレンジブック保険薬局版2011年8月版	日本薬剤師会 編	薬事日報社	2011年8月
科学的根拠に基づく乳癌診療ガイドライン①治療編2011年版	日本乳癌学会 編	金原出版	2011年9月
科学的根拠に基づく乳癌診療ガイドライン②疫学・診断編	日本乳癌学会 編	金原出版	2011年9月
経腸栄養製剤<剤>便覧～合理的な選び方の指針～	日本栄養士会 編	文光堂	2011年9月
健康食品・サプリメント (成分) のすべて-ナチュラルメディシンデータベース-	日本健康食品・サプリメント情報センター 編	日本健康食品・サプリメント情報センター 編	2011年10月
高齢者外来診療のキーワード	五十嵐正男 著	薬事日報社	2011年9月
超!文献管理ソリューション～PubMed/医中誌検索からクラウド活用まで～	讃岐美智義 著	学研メディカル秀潤社	2011年6月
日経D I クイズ13	日経ドラッグインフォメーション 編	日経BP社	2011年10月
日本の新薬-新薬承認審査報告書集-第41巻 平成22年1月承認分-1	日本医薬情報センター	日本医薬情報センター	2011年11月
日本の新薬-新薬承認審査報告書集-第42巻 平成22年1月承認分-2 平成22年4月承認分-1	日本医薬情報センター	日本医薬情報センター	2011年11月
日本の新薬-新薬承認審査報告書集-第43巻 平成22年4月承認分-2 平成22年6月承認分-1	日本医薬情報センター	日本医薬情報センター	2011年11月
日本の新薬-新薬承認審査報告書集-第44巻 平成22年7月承認分-1	日本医薬情報センター	日本医薬情報センター	2011年11月
日本の新薬-新薬承認審査報告書集-第45巻 平成22年7月承認分-2 平成22年9月承認分 平成22年10月承認分-1	日本医薬情報センター	日本医薬情報センター	2011年11月
日本の新薬-新薬承認審査報告書集-第46巻 平成22年10月承認分-2	日本医薬情報センター	日本医薬情報センター	2011年11月
ハードからみたGMP～医薬品ビジネスにかかわる人が知っておきたいこと～ 第2版	中尾明夫、田原繁広、藤岡徹夫、那須川真澄	じほう	2011年9月
臨床薬理学 第3版	日本臨床薬理学会 編	医学書院	2011年8月
わかりやすい薬理学～薬の効くプロセス～ 第5版	伊藤芳久、石毛久美子	創風社	2011年9月

## 情報提供一覧

【平成23年11月1日～11月30日提供】

出版物がお手許に届いていない場合、宛先変更の場合は当センター事務局 業務・渉外担当 (TEL 03-5466-1812) までお知らせ下さい。

情報提供一覧	発行日等	JAPIC作成の医薬品情報データベース	更新日
〈出版物・CD-ROM等〉		〈iyakuSearch〉 Free	<a href="http://database.japic.or.jp/">http://database.japic.or.jp/</a>
1. [JAPIC Pharma Report-海外医薬情報]	11月4日	1. 医薬文献情報	月 1 回
2. [添付文書入手一覧] 2011年10月分 (HP定期更新情報掲載)	11月1日	2. 学会演題情報	月 1 回
3. [JAPIC NEWS] No.332 12月号	11月25日	3. 医療用医薬品添付文書情報	毎 週
〈医薬品安全性情報・感染症情報・速報サービス等〉 (FAX、郵送、電子メール等で提供)		4. 一般用医薬品添付文書情報	月 1 回
1. [JAPIC Pharma Report海外医薬情報速報] No.806-810 (旧: 医薬関連情報速報FAXサービス)	毎 週	5. 臨床試験情報	随 時
2. [医薬文献・学会情報速報サービス (JAPIC-Qサービス)]	毎 週	6. 日本の新薬	随 時
3. [JAPIC-Q Plusサービス]	毎月第一水曜日	7. 学会開催情報	月 2 回
4. [外国政府等の医薬品・医療用具の安全性に関する措置情報サービス (JAPIC Daily Mail)] No.2547-2566	毎 日	8. 医薬品類似名称検索	随 時
5. JAPIC Weekly News No.326-330	毎週木曜日	9. 効能効果の対応標準病名	月 1 回
6. [Regulations View Web版] No.226-227	11月11日・25日	〈iyakuSearchPlus〉	<a href="http://database.japic.or.jp/nw/index">http://database.japic.or.jp/nw/index</a>
7. [感染症情報 (JAPIC Daily Mail Plus)] No.416-419	毎週月曜日	1. 医薬文献情報プラス	月 1 回
8. [PubMed代行検索サービス]	毎月第一・三水曜日	2. 学会演題情報プラス	月 1 回
9. [JAPIC医療用医薬品集2012] 更新情報2011年11月版	11月30日	3. JAPIC Daily Mail DB	毎 日
		4. Regulations View DB (要:ID/PW)	月 2 回
		外部機関から提供しているJAPICデータベース	
		〈JIP e-infoStreamから提供〉	<a href="https://e-infostream.com/">https://e-infostream.com/</a>
		〈JST JDream II から提供〉	<a href="http://pr.jst.go.jp/jdream2/">http://pr.jst.go.jp/jdream2/</a>

平成10年1月～平成22年12月承認分までの審査報告書の全文を収録!

# 日本の新薬 全46巻

— 新薬承認審査報告書集 —



B5判

◆最新の6巻を刊行。全46巻に!!  
新薬71品目を追加し、全巻では642品目を掲載。  
各巻23,100円(税・送料込)

◆本書は、新薬の承認審査における厚生労働省の『審議結果報告書』および(独)医薬品医療機器総合機構等の『審査報告書』をすべて収録しており、  
**新薬開発、薬事・市販後対応、医学・薬学教育に!!**

## ◆お得で便利なセットでの購入をお勧めします!!

全46巻セット 1,062,600円(税・送料込)のところ、半額の **531,300円** (税・送料込)  
追加分6巻セット 138,600円(税・送料込)のところ、半額の **69,300円** (税・送料込)

財団法人 日本医薬情報センター **JAPIC** 編集・発行 ☎ 0120-181-276  
丸善出版株式会社 発売 TEL 03-6367-6038

上記書籍の他、電子カルテやオーダリングシステムに搭載可能なJAPIC添付文書関連データベース(添付文書データ及び病名データ)の販売も行っております。データの購入希望もしくはお問い合わせはJAPIC (TEL 0120-181-276) まで。

# Garden ガーデン

このコーナーは薬用植物や身近な植物についてのヒトクチメモです。リフレッシュにどうぞ!!

## くろがねもち

赤い実と名前がリッチなので好んで庭木に用いられる。中国名は鉄冬青で常緑のモチノキ科のことを冬青科と呼び、日本には17種あるがいずれもIlex (イレクス)属で赤い実を付ける。見かけは異なるがセイヨウヒイラギやソヨゴも同属で、モチノキと同様、樹皮から烏糞(とりもち)がとれ、成分はトリテルペン系の粘液質である。中国では樹皮を救必応と称し清熱解毒などの生薬にする。(ky)



**JAPICホームページ**より  
<http://www.japic.or.jp/>

HOME

サービスの紹介

ガーデン

Topページ右下部の「アイコン」からも閲覧できます。